

令和7年度 家庭教育専門委員会研修会

実施期日：令和7年11月5日（水）

会 場：埼玉会館 小ホール

主 催：埼玉県高等学校PTA連合会

後 援：埼玉県教育委員会

後 援：（一財）埼玉県高等学校安全振興会

目 次

次第	・・・・・・・・・・ 2 ページ
----	------------------

発表校資料

(1) 埼玉県立草加東高等学校 P T A	・・・・・・・・・・ 3 ページ
(2) 埼玉県立川越高等学校 P T 会	・・・・・・・・・・ 7 ページ
(3) 埼玉県立常盤高等学校 P T A	・・・・・・・・・・ 1 1 ページ
(4) 埼玉県立鴻巣女子高等学校 P T A	・・・・・・・・・・ 1 5 ページ

令和7年度埼玉県高等学校PTA連合会 家庭教育専門委員会研修会 次 第

日時 令和7年11月5日(水)

場所 埼玉会館 小ホール

受付 12:30～13:00
【司会・進行】 埼玉県立入間向陽高等学校PTA会長 岡本 康

1 開会のことば 埼玉県立児玉高等学校PTA会長 兼子 和之

2 講演会(13:05～14:20)

(1) 講師紹介 埼玉県立児玉高等学校校長 植田 雅浩

(2) 講演 題 クイーンフィールド(株) 大野 亜紀 様

『伝えるから届くへ』
～様々なシーンに活かせる、こころに届く声と意識の育て方～

(3) 質疑応答

(4) お礼のことば 埼玉県立入間向陽高等学校校長 福田 徳宜

休憩(14:20～14:30)

3 開会行事(14:30～14:40)

(1) 委員長あいさつ 埼玉県立羽生実業高等学校PTA会長 佐々木 舞

(2) 講師紹介 (司会)

(3) 発表者・校長の紹介 (司会)

4 研究協議(14:40～16:00)

(1) 実践発表(各校20分)

東部支部 埼玉県立草加東高等学校PTA会長 丸山 一晶
【家庭教育とPTA】

西部支部 埼玉県立川越高等学校PT会会長 伊藤 正子
【先生方と手を携えて子どもたちの応援団に】

南部支部 埼玉県立常盤高等学校PTA会長 八木 由子
【学校応援団としてのPTA】

北部支部 埼玉県立鴻巣女子高等学校PTA会長 木村 咲子
【鴻巣女子高校における家庭教育とPTAの取組について】

(2) 質疑応答

(3) 講演(16:05)

埼玉県教育局教育総務部生涯学習推進課
指導主事 野口 和嵩 様

5 連絡 埼玉県高等学校PTA連合会より 事務局 川田 清隆

6 閉会のことば(16:30)

埼玉県立児玉高等学校PTA会長 兼子 和之



家庭教育とPTA

埼玉県立草加東高等学校

PTA会長 丸山 一晶

1 学校概要

埼玉県立草加東高等学校は全日制普通科の高等学校として昭和55年4月に開校し、46年目を迎えました。埼玉県南東部に位置し、最寄りの越谷レイクタウン駅まで徒歩20分です。また、東側には東埼玉道路が走っており、西側には県や市の障害者施設があります。



目指す学校像は「希望をもって自己実現に努め、社会に貢献できる生徒を育成する」とし、可能性を信じて挑戦できる様々な教育活動をしています。

生徒数は1学年320名(8クラス)定員、全校では24クラス、937名在籍しています。男女比は1対1です。

通学区は、草加市内は23.6%、次いで越谷市20.9%となり、近隣5市で87.2%、自転車通学83.2%の地元に根付いた学校です。

教育課程は2学年から文系・理系に分かれ、3学年ではそれぞれに多様な選択科目を設置しています。

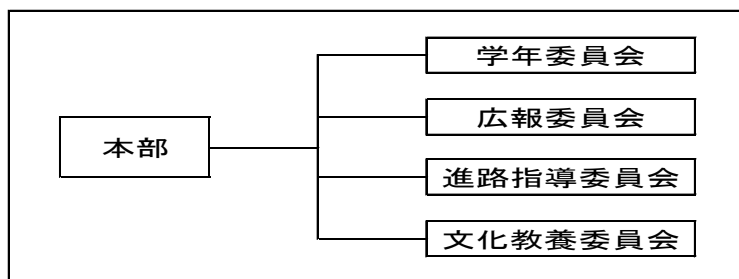
進路は大学・短大50%、専門学校41%、就職5%、その他5%(令和6年度)となる、進路多様校です。

生徒は毎日15分間(8:30～8:45)朝学習を行ない、落ち着いた雰囲気です。1時間目をスタートできる環境を整えています。また、メンタルヘルスリテラシーの研究指定校になっていたことをきっかけに、生徒同士がピアサポートして、お互いを大切にするような人間関係作りの授業も年間指導計画に位置づけて実施しています。

部活動は1年生原則全員加入ですが、全校生徒94%が3年間所属しています。運動部18、文化部14と多くの部活動があり、中でもダンス部、弓道部、サッカー部、男子バレーボール部、JRC 部、軽音楽部は50名以上の部員が活動しています。

地域交流も盛んで、公民館でのコンサートや秋祭りの参加、障害福祉サービス事業所からは月1回マドレーヌの校内販売、そして秋祭りへ参加をしています。また、障害者支援施設では放課後のボランティア活動や、1年生全員が介護体験を行っています。

2 PTA 活動



本校のPTA組織は、本部、学年委員会、広報委員会、進路指導委員会、文化教養委員会の5つで成り立っています。

本部は、PTA・後援会活動全般の協力と、各委員会の活動補助をしています。体育祭では生徒にペットボトルを配りました。学年委員会は文化祭(東輝祭)の参加協力をします。また、マラソン大会では、給水所の協力を行います。広報委員会は年3回、広報誌「茜」を発行します。進路指導委員会は進路講演会の企画運営です。今年度は8月に、外部から講師をお招きして進路講演会を実施しました。文化教養委員会は7月のPTA研修旅行の企画運営です。

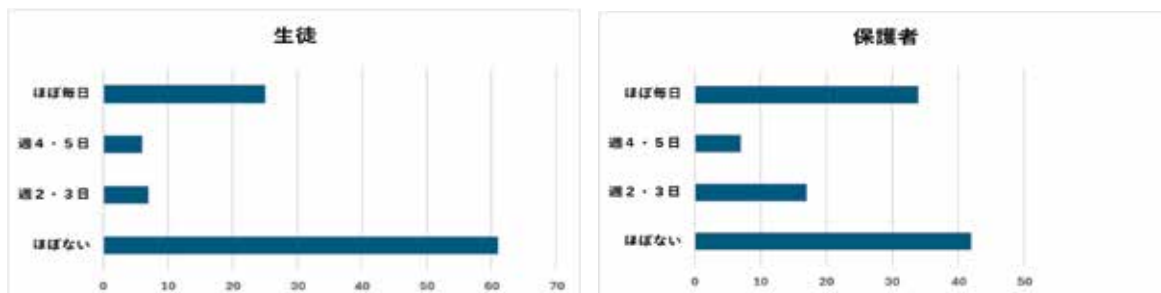
3 家庭教育について

(1) アンケートの実施

7月に生徒と保護者へアンケートを実施しました。生徒はグーグルクラスルームで回答を、保護者へはメール配信を行いフォームで回答を得ました。

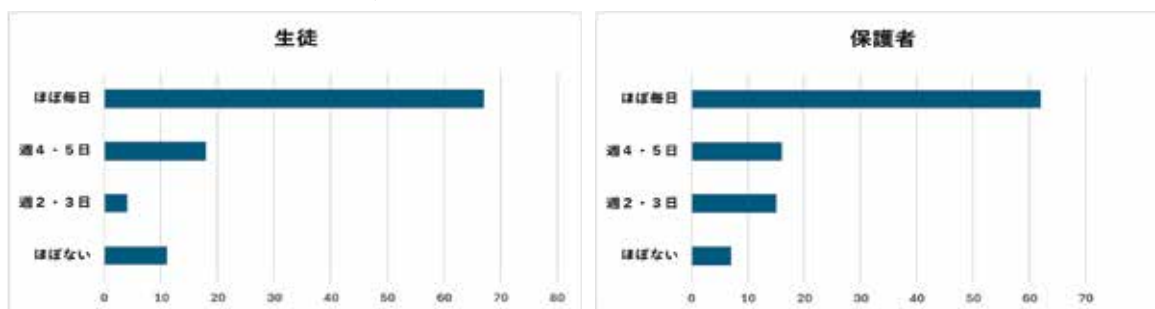
(2) アンケート結果

① 子どもと保護者は一緒に朝食を摂っていますか



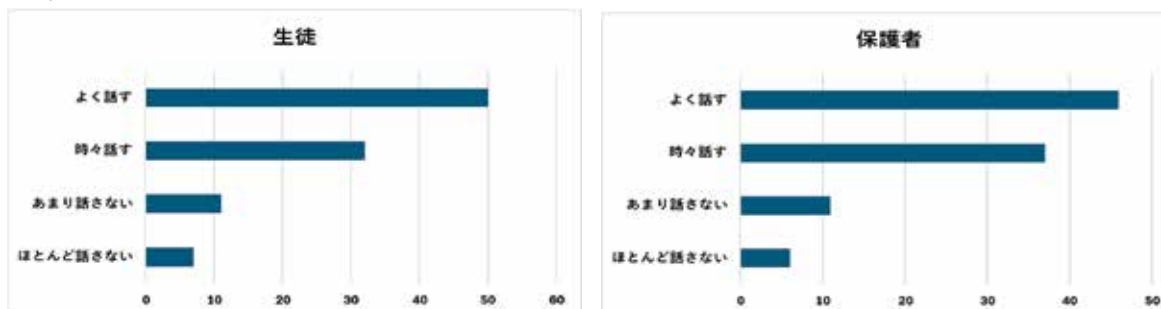
6割の生徒が保護者と朝食をほぼ摂っていないと回答。これは保護者とのズレがある。

② 子どもと保護者は一緒に夕食を摂っていますか



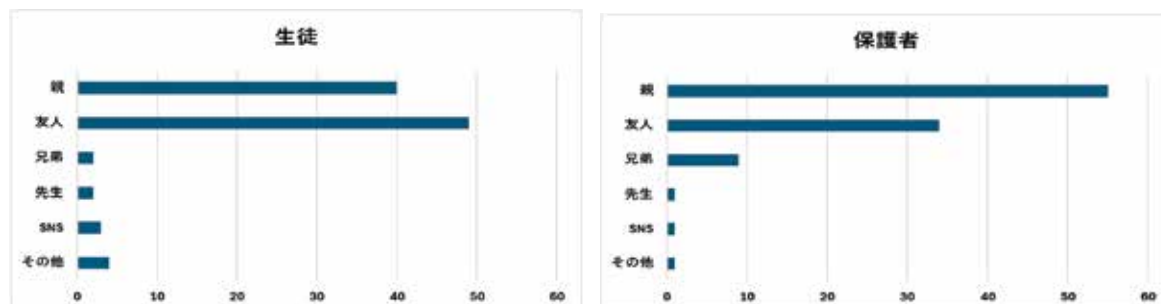
6割以上がほぼ毎日夕食を一緒に摂っている。しかし、ほぼ別々が1割いる。

③ 家庭で学校や友人のことを話しますか



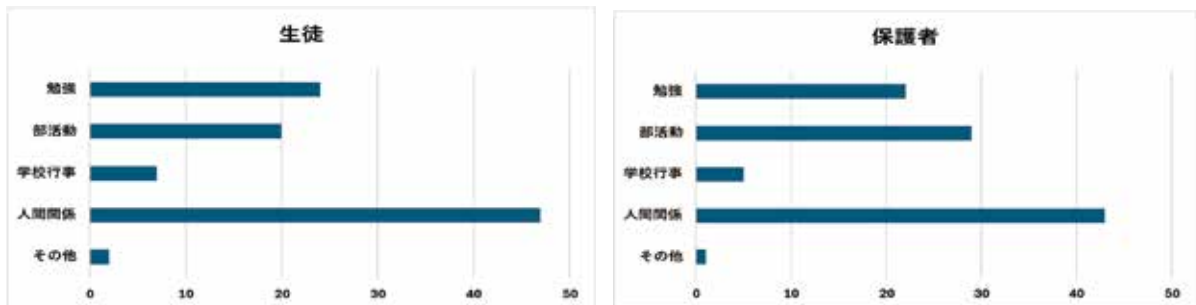
「よく話す、時々話す」は生徒・保護者共に80%を超えた。

④ 生徒は困った時に誰に相談しますか



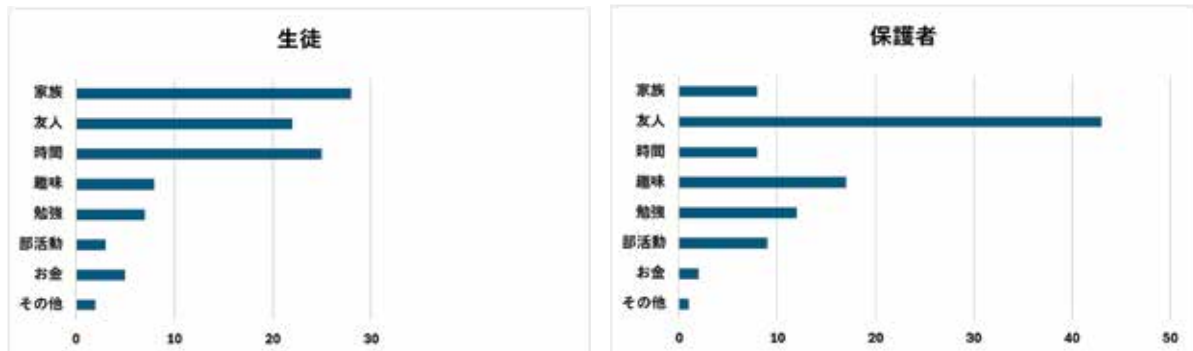
保護者は、保護者や兄弟の家族に相談すると考えているが、生徒は、友人に相談するが一番多い。生徒の「その他」には、「話さない」「AIに話す」という回答が目立った。

⑤ 生徒が学校生活で一番重視していることは何ですか



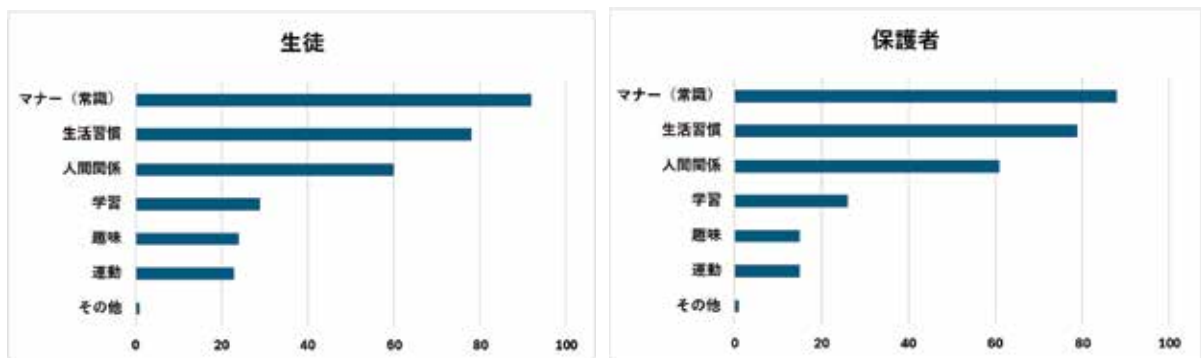
保護者が考えているほど、生徒は部活動を重視していない。

⑥ 生徒が今一番大切なことは何ですか



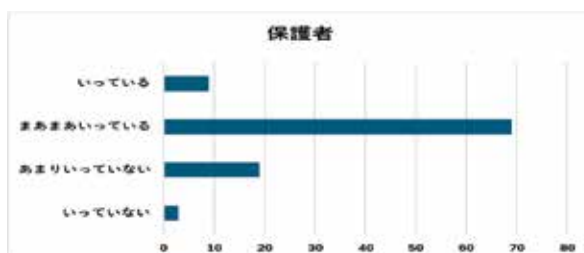
生徒は家族が1番であるが、保護者は友人が1番である。生徒と保護者の認識のズレが大きい。

⑦ 家庭で親に教えてもらったこと、子どもに教えたことは何ですか(複数回答可)



これは生徒・保護者共に「マナー(常識)」「生活習慣」「人間関係」と続いた。「しつけ」と呼ばれるところだと考える。

⑧ (保護者のみ)家庭での教育は上手いといっていますか



「上手い」「まあまあいい」が約8割だった。

⑨ 家庭での教育において感じる課題点がありますか(自由記述) ※集計は生成 AI を活用
課題は大きく4つの項目に分けられました。

1 生活習慣・家庭でのしつけ

生活リズムの乱れなどの基本的な習慣の定着不足、身の回りの整理や最低限の家事ができない

2 コミュニケーションの課題

思春期や反抗期による親子間の会話不足や意思疎通の難しさ、会話の時間を作ることが難しい、
親のアドバイスが伝わらない、意見を否定させることへの悩み、距離感の取り方や子どもの意見を尊重する難しさ

3 学習習慣・教育への不安

勉強の習慣化や意欲の欠如、親が自分の経験不足を感じて学習内容や進路相談に十分に対応できない

4 電子機器・ネット環境の影響

スマホ依存、SNSトラブル、ゲームのやり過ぎ、ネット社会や AI の進展に親が追いつけず適切な指導ができない
不安

4 まとめ

(1)学校と家庭が協力して取り組むべきこと

1 生活習慣・家庭でのしつけ

- ① 生徒自身が自己管理能力を養うきっかけになるように、学校と家庭が協力して、生活リズムや時間管理を記録する「習慣チェック表」を導入して、「生活習慣の見える化」
- ② 学年懇談会などで、PTA が中心になって家庭での課題を共有し、他の保護者の取り組み例を参考にできる「定期的な情報交換の場の設定」

2 コミュニケーションの課題

- ① 学校での様子を保護者に伝える、家庭での悩みを学校と共有するといった「情報共有」の観点で、「学校と家庭の情報共有強化」

3 学習習慣・教育への不安、

- ① 生徒が自己管理できるように学校から「家庭学習のサポートツール提供」、保護者も参加できる進路ガイダンスや相談会の案内の提供といった「進路相談会の強化」
- ② 学校外でのオンライン学習等を紹介し、家庭での学習環境を強化するといった「学びの場の柔軟性を高める」

4 電子機器・ネット環境の影響

- ① 保護者も参加できるセミナー等を紹介し、ネットリテラシーを家庭内で実践する方法を学ぶ「デジタルリテラシー教育」
- ② SNS でのトラブル事例や対策を学校が定期的に保護者に共有し、保護者が問題を早期に察知できるように「ネットトラブル防止の情報共有」

(2)学校と家庭の協力体制を強化するための提案

1 情報交換の場の設定

2 学校内専門家や外部機関との連携

3 家庭での取り組みを応援するサポート体制

4 生徒も主体的に関わる仕組みづくり

(3)取り組みのゴール

学校と家庭が協力することで、子どもたちが健全な生活習慣を身につけ、親子間のコミュニケーションが活性化され、学習意欲や自己管理能力の向上につながることで。また、電子機器やネット社会の影響を正しく理解し、活用できる子どもたちを育てることも大切です。これらの取り組みを通じて、学校と家庭が一体となり、生徒の成長を支える環境づくりを進めてまいります。



家庭教育とPTA

先生方と手を携えて子どもたちの応援団に

埼玉県立川越高等学校

PT会会長 伊藤 正子

1 はじめに

(1) 沿革及び概要

本校の所在地である川越市は江戸時代には城下町として栄え、現在も蔵造りの街並みが残し、小江戸として多くの人々を魅了する歴史と風情あふれる街です。本校は、その歴史ある川越城の城跡に明治32年4月、埼玉県第三中学校として開校し、今年度創立126年を迎える男子校です。自主自立の校風のもと、これまで3万4千人を超える人材を輩出し、卒業生は埼玉県内はもとより、国の内外において幅広い分野で活躍しています。

昭和23年に学校教育法の施行に伴い埼玉県立川越高等学校と改称されました。当初、全日制課程と定時制課程が設置されましたが、平成23年3月をもって定時制課程は閉じられ、現在は全日制課程普通科1学年9クラス規模で運営されています。教育活動においては、平成18年度から28年度まで文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、先進的な理数教育に取り組み、平成20年度からは土曜公開授業を導入し、地域との連携や開かれた学校づくりを推進しています。

【目指す学校像】

新たな時代に向けて、伝統ある進学校としての期待に応えつつ、自主自立の校風を継承・発展させ、リーダーとなる良識ある人材を育成する。

【重点目標】

- ・文武両道－学力向上と特別活動等を両立させ、高い目標に果敢にチャレンジする生徒を育成する。
- ・自己実現－様々な機会を通して視野を広めつつ、高い「志」を実現できる生徒・グローバルに活躍できる生徒を育成する。
- ・情報発信－積極的に情報を発信して、生徒・保護者・地域等からの期待と信頼に応える学校づくりを推進する。



(2) 本校の特色

① 進学型単位制の導入

学年制と単位制の利点を組み合わせた「進学型単位制」を導入し、確かな学力を身につけると同時に、希望する進路に応じた幅広い科目選択を実現し、生徒一人一人に最適なカリキュラムを提供しています。また、土曜授業を隔週で実施し、月・水曜日は7時間目を設定することで、週34単位分の50分授業を確保しています。

② 学校行事

生徒実行委員会が企画運営を行い、自主自立した活動が展開されています。それぞれの行事は、生徒たちの個性や努力、パフォーマンスが輝く場となっています。

・くすのき祭

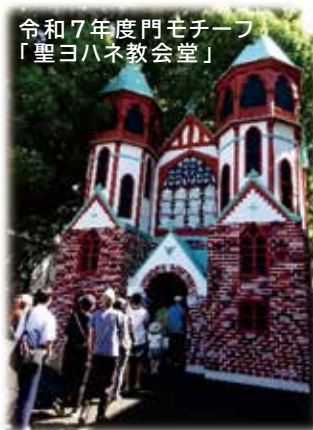
今年度も約13,600人の来場者を迎え、大盛況。

多くの実行委員の思いが込められた門は壮観で、毎年その高い完成度から注目を集めています。

・3大体育行事（球技大会・陸上競技大会・強歩大会）

生徒の心身の成長と仲間との絆を深めることを目的に実施。

川高生が団結し、一つになる舞台です。

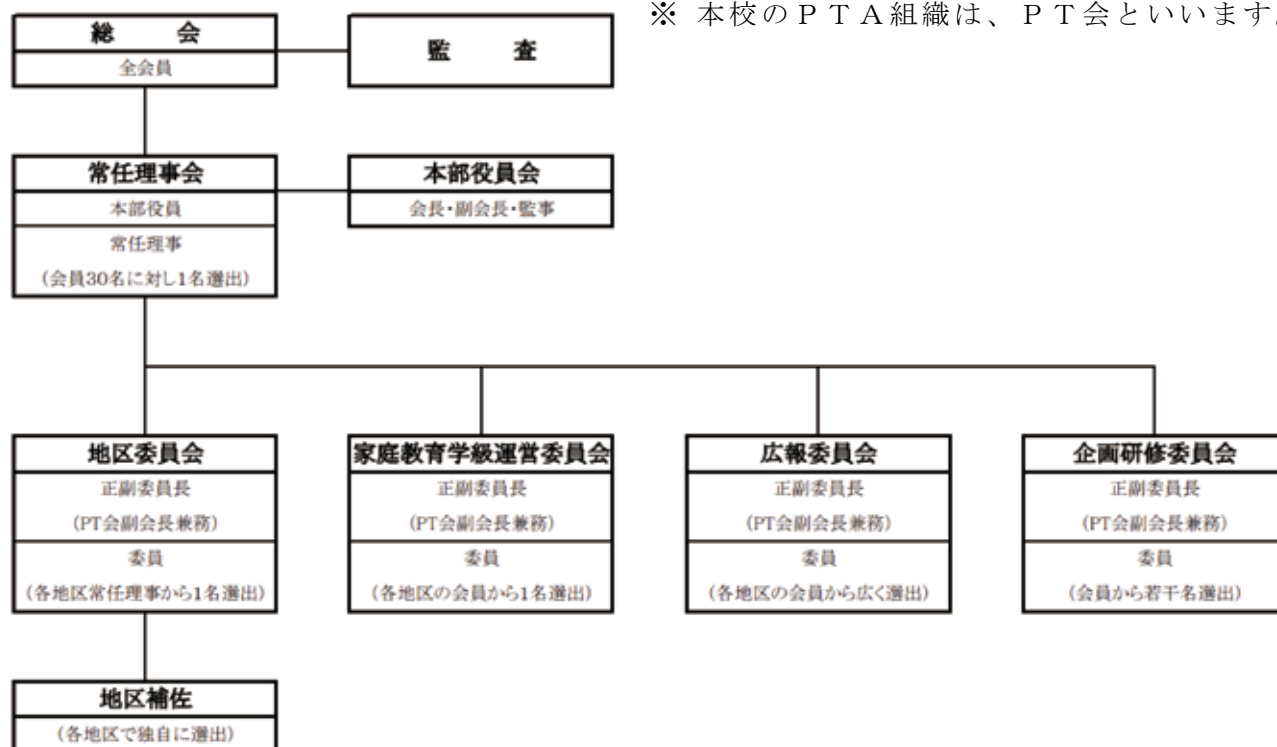


③ 部活動（原則全員加入）

文化部21、運動部15の部活動が活動しており、兼部している生徒も多くいます。互いに切磋琢磨できるかけがえのない仲間と出会い、人間力を磨く絶好の場となっています。令和7年度の実績としては、物理部の世界大会出場や、剣道部の全国大会出場、庭球部（ソフトテニス部）、陸上競技部、音楽部の関東大会（コンクール）出場など、それぞれの目標に向け、活発に取り組んでいます。

2 本校のPT会活動

(1) PT会組織図



本校PT会は、学校の教育活動への協力・各種委員会活動、関係方面に対する必要な具申、会員相互の研鑽を目的として、会長、地区委員会・家庭教育学級運営委員会・広報委員会・企画研修委員会の各正副委員長が担う副会長、監事2名、地区ごとに会員30名に対し1名選出される常任理事18名で構成されています。

本校の大きな特徴は、伝統的に後援会のバックアップ体制が強力で、後援会会長をはじめとして、PT会活動には常に後援会役員の方々の参加をいただき、一緒に活動を行っていることです。

(2) 活動について

年4回の常任委員会を中心に、4つの委員会が行事を企画・運営しています。広報誌も発行しています。

各委員会の主催行事は以下の通りです。

- 地区委員会…地区別PT会（卒業生の保護者から話を聞く）
- 家庭教育学級運営委員会…大学見学会・卒業生の話を聞く会
- 広報委員会…広報誌「かわたか」の発行（年3回、7・12・3月）
- 企画研修委員会…懇話会・懇親会

PT会年間行事

1 学期	2 学期	3 学期
4 月 入学式 第 1 回常任委員会 5 月 PT会・後援会総会 第 2 回常任委員会 7 月 地区別 PT会	9 月 第 3 回常任委員会 1 0 月 大学見学会 1 1 月 企画研修委員会 主催事業	1 月 第 4 回常任委員会 3 月 卒業式
広報「かわたか」発行（年3回）		

3 家庭教育に関する行事

(1) 地区別PT会について

毎年7月に、卒業生の保護者を招いて行います。全体会では、高校時代のお子さんの様子や現在の大学生活について話していただきます。その後、地区ごとに別れて少人数で話し合います。部活やお弁当作り、親子関係等日頃の気がかりな点で盛り上がります。実施後のアンケートでは、90%以上が満足という回答をいただきました。主なものを以下に挙げます。

- ・卒業生の保護者の方々のお話が具体的で、とても参考になりました。
- ・どこの家庭でも悩みは一緒だということがわかって少し安心しました。
- ・はじめて会う保護者の方と話すことができ、楽しかった。
- ・分科会では、在学中の先輩の学校生活等を聞いて心強かった。
- ・PT会主催のイベントに可能な限りこれからも参加したい。



地区別PT会 全体会の様子



分科会の様子

(2) 企画研修委員会主催事業について

これまで県内外の高校を視察し、保護者同士の交流を行っていました。参加者にはとても好評でしたが、相手校の負担を考え内容を刷新しました。PT会・後援会会員同士の交流を深めるという目的は継続し、より参加しやすい内容を実施するためのアンケートを実施しました。その中で、スクールカウンセラーから話を聞きたい、地元川越の街についてもっと知りたいという意見が多く出ました。

そこで、午前中はスクールカウンセラーの先生をお招きして「保護者として川高生をどのように見守っていけばよいか」というテーマでお話をしていただき、午後は昼食後に町雑誌「小江戸ものがたり」編集長の藤井美登利さんの案内で、川越の散策を行いました。参加者アンケートから目的を達成できたと感じました。主なものを以下に挙げます。

- ・スクールカウンセラーの話でザワついた気持ちが落ち着いた。
- ・他の保護者の話は、自分の息子に対する関わり方を考えさせられるもので、もっと息子を信じて、頑張っている息子を誇りに感じた時間だった。
- ・グループワークでは、同じ学年の保護者から学校や家庭での具体的な様子を聞くことができ安心した。
- ・今回の内容を早速、家族と共有したい。
- ・保護者の交流の場が少ないので、このような機会はとてもうれしい。
- ・川越の歴史や文化を知ることができ、好奇心が満たされた。

4 おわりに

本校の保護者は、学校教育への関心がとても高いです。授業参観や学校行事への参観も多く、保護者懇談会の参加は9割を超えています。各部活動の大会や演奏会等への応援も熱心です。

一方で、子どもたちは家庭で学校生活について話さないことが多いので、漠然とした不安を感じる保護者が少なくありません。そこで、PT会の各行事を通して、子どもたちの日頃の様子や学校生活について知ることができ、不安解消につながっています。特に卒業生の話は、高校生時代のリアルな気持ちを聞くことができ、我が子との接し方のヒントとなっています。また、保護者同士の交流は、子どもとの距離感を見直す良いきっかけとなっています。

PT会の役割は、子どもたちの様子を知る情報源であり、保護者同士の交流も楽しいものとなっています。今年度の「かわたか」では、校長先生から「生徒一人一人の志を形にする支援を積み重ねる」とあり、後援会会長からは、「生徒達と保護者の皆様をサポートします」とありがたい言葉をいただきました。わたしも生徒・学校の応援団でありたいと考えています。このような活動が、今後も持続可能となるように、役員が負担なく、楽しく活動できる環境整備が必要です。そのために、活動の見直しを行いました。行事を精選し、内容や実施回数を改善することで、負担軽減になればと考えています。役員が楽しく活動出来れば、その輪が会員の皆様に広がり、参加者が増え活動が活性化します。これからも子どもたちのために先生と共に取り組んでいきます。

～学校応援団としてのPTA～

埼玉県立常盤高等学校PTA会長 八木 由子

1 本校の概要

常盤高等学校は、埼玉県内で唯一の看護科を設置した5年間一貫教育の看護師養成の専門高校である。昭和45年に現在のさいたま市役所の場所に常盤女子高等学校として開校し、その後、昭和47年にさいたま市桜区に移転した。平成15年の共学に伴い、学校名を現在の常盤高等学校となった。



各学年2クラス規模であり、1学年のクラス数としては埼玉県の公立高校で一番少ない高校である。

5年間の課程を修了すると、看護師国家試験の受験資格が得られ、毎年国家試験合格率は100%に近い。令和6年度の全国の合格率の平均は、大学・専門学校などを含め90.1%である。普通高校などを卒業し、4年制大学看護学科や看護短大、専門学校を経て看護師になることに比べ、最短で看護師となることができる。

本校の5年間一貫教育は、看護科の3年間と専攻科の2年間の課程から成り立っている。3年間の看護科を卒業すると、入学試験を経ずに専攻科に進学できる。したがって5年間継続して系統的な学習に取り組んでいる。

また、看護師国家試験の受験資格取得のためには「保健師助産師看護師法」により、文部科学省・厚生労働省で定める基準に適合した教育課程編成をする必要がある。そのため、看護科では学習指導要領に沿った教育課程が編成され、普通教科が3分の2、看護教科が3分の1となっている。一方、専攻科は、約9割が看護教科である。

5年間一貫といっても、3年間の高校と2年間の短大が同じ敷地や校舎で同居しているイメージである。1時間の授業時間も看護科は50分であるが、専攻科は大学並みの90分である。時程が異なるため、定期考査を含め、校内はノーチャイムである。



看護科は制服があるが、専攻科は臨地実習などの校外学習や学校行事では自前のスーツを着用するものの、平常の学校生活ではTPOを考えた私服で過ごしている。

学校行事は修学旅行・宿泊研修・文化祭・体育祭などの行事に加え、看護研究発表会、学年縦わりの合同プレゼンテーション、生徒会主催の忘年会・国家試験激励会などの

本校独自のものもある。

行事は生徒中心で運営されているが、生徒数や教員数が少ないことから PTA 役員も応援団としてお手伝いしている。校則の改訂も生徒会の発案であり、自治的な活動がされている。

看護科の特筆すべき行事は「戴帽式」である。看護科の学校では伝統的に実施され、本校は2回（6週間）の病院実習を終えた3年生の3月に行っている。看護師を目指す生徒一人一人、看護師の象徴であるナースキャップを戴き、ナイチンゲール像からろうそくに明かりを移す儀式である。暗闇の中にろうそくの明かりだけがともる光景は、とても幻想的かつ神秘的である。生徒たちは「誓いの言葉」を斉唱し、ナイチンゲールの精神を受け継ぎ看護の道へ進む自覚と誇りを深めていく。

5年間の課程を修了した生徒のうち約90%が病院の看護師として就職する。原則として、埼玉県立高等学校であることから、埼玉県内の県立病院・市立病院・大学病院を始めとした実習でお世話になった高度急性期病院の実習病院が大半である。また、約10%の進学者は、助産師、保健師を目指した上級学校に進学する生徒や、国公立大学を含め4年制大学の3年次に編入する生徒がいる。

2 本校のPTA組織

本校のPTA組織は、新型コロナウイルス感染症後に PTA 活動の在り方や精選を行っている。もともと簡素な組織であったが、PTA の役割を見直し現在も組織の改編を行っている。令和7年度からは、暫時的に理事を看護科からは9名（計27名）、専攻科からは3名（計6名）の構成員として、理事の人数の縮減をした。また、3部ある部会も将来的には廃止し組織の機能性を高め、スリム化を図っている。

理事会の開催は総会を含めて年2回とし、Google classroom などを活用しての情報共有や意見聴取を行っている。

3 学校応援団としてのPTA活動

上記で述べた通り、今後のPTAの在り方や取組方針などについて校長先生を交えて検討した。その結果「学校応援団としてPTA」と位置付けし、学校や生徒の教育活動をサポート・支援することを主な役割とした。

具体的には、これまで慣例的に行ってきた懇親会や親睦会、PTA主催の講演会、研修旅行などは一旦廃止し、対外的な活動は必要に応じて精査している。発行を年に1回に減らした「PTAだより」については、新入生に向けて学校の情報を発信してもよいと判断し、今年度は発行した。後で、説明する行事等への参加も自主性を重んじている。

このような方針で本校がPTA活動を行っていることは、入学式後の保護者会で校長先生が丁寧に説明してくれるので「PTAへの入会は任意ではないか」などと質問したり、入会を拒否したりする保護者は皆無である。

ここでは「学校応援団」として、本校のPTAが取り組んでいる活動を3つ紹介したい。

（１） 学校行事の応援団

常盤高校は看護科３学年で６クラスと小規模である。小規模だが文化祭や体育祭などの学校行事は大いに盛り上がる。文化祭や体育祭では、保護者や一般の方の観覧もあるが、教職員の人数も少ないため、外来者の対応まで行き届かない現状がある。そこで、PTA役員が外来者の受付や接待などの対応を行うことで教職員の負担を減らし、行事の活性化を応援している。

また、行事に関する予算規模も少ないため、生徒たちがもっと活躍できるように、PTAから行事への補助金を出している。コロナ前に慣例的に行ってきたPTA関連の行事を廃止、縮減したことで捻出できた予算を生徒の活躍に充てている。

特に今年度は文化祭の来場者をフルオープンで再開し、これまで手薄だった装飾やお土産（後述するトキワノゲールや常盤飴）などの予算に充て、生徒はもちろん来場者にも大いに楽しんでもらった。

また、学校主催での講演会で著名な講師を呼ぶ際には、多額の講演料もかかってしまうため、PTAとの共催事業とし、保護者の方々も参加できるようにしている。

（２） 学校PRの応援団

本校は、埼玉県内で唯一の看護科を設置した５年間一貫教育の看護師養成の専門高校でありながら、県内での知名度が低いのではないかという話があった。そこで、PTAとしても常盤高校の知名度を上げるために応援できないか考え、昨年度常盤高校のマスコットキャラクターの作成の意見を下にした企画があり、生徒会と協力をし、マスコットキャラクターのデザインを広く募集、その中から候補作を絞り、文化祭で展示し来場者からの投票を行った。

その結果、できあがったマスコットキャラクターが「トキワノゲール」である（右写真）。「トキワノゲール」は、いろいろなところで登場するが一層、身近なキャラクターとするために今年度はリフレクターとシールをPTAの予算から作成した。リフレクターは全校生徒と文化祭で来場した小・中学生にも配布した。シールは体験入学等で来校した中学生に配布した。

私立高校の無償化や専門高校の人気薄など、本校の生徒募集も厳しい状況下にある。未来を担う看護師の養成のために、今後も常盤高校のPR活動が続けていきたい。



（３） 看護実習の応援団

常盤高校では、看護科１年生の段階から看護に関する科目が設置されている。その中の「基礎看護」の授業で保護者が患者役として実習に参加し、生徒の学びを支えている。

1年生の年度末に1年間の実習の集大成として行っている。平日にも関わらず、多くの保護者の参加



がある。1年生の実習では、基礎的な「バイタルサイン・コミュニケーション」や「寝衣シーツ交換」などを行う。普段の授業では生徒同士が看護師役と患者役を担っているが、実際に初めてお会いする保護者の看護を行うため、生徒はコミュニケーションなど非常に緊張する。しかし、今後に向けての実践的な実習といえる。寝衣シーツ交換では、男性を受け持つと、生徒はかなり工夫が必要となる。保護者は、自分の子供から直接、看護されることはないが、同じ実習室の中に自分の子供が必ずいるように配置されており、ちらちらと自分の子供の様子を見る姿も見ることができる。

実習中はひとつひとつ、必ずレフレクション（振り返り）を行い、保護者からの貴重な感想や意見は生徒にとって何よりの学びである。1年生の保護者が多いので、自分の子供の学びに直接触れられたことは大きく、学校応援団として生徒たちを支援していくことが再確認される。

4 おわりに

このように常盤高校はPTAを「学校応援団」と位置付けたことによって、PTA活動が停滞しているように見えるかもしれない。確かに活動の量としては減っているが質は高まっている。PTA活動を強制せずに自主的に参加する活動としたことや学校・生徒を応援したいという保護者も多いことから、学校への帰属意識は高まっていることもいえる。

先ほど紹介した学校のマスコットキャラクターやリフレクターの作成は、PTAの役員が主体的になり学校側に協力を得ながら実施したものである。



このように今後も「こんな風に生徒たちを応援したい」「こんなことをすれば、学校PRにつながる」といった話題が出るかもしれない。そうなることで、私たちは将来、看護師として従事する生徒たちの「学校応援団」としての役割がますます果たせるのではないだろうかと考えているところである。

家庭教育とPTA

提 案 者 埼玉県

所 属 校 埼玉県立鴻巣女子高等学校

役 職 PTA会長

氏 名 きむら さきこ
木村 咲子



発表テーマ 「鴻巣女子高校における家庭教育とPTAの取組について」

1 学校の沿革

昭和38年4月に、埼玉県立鴻巣高等学校の東校舎に女子普通科が設置され、昭和41年3月、埼玉県立鴻巣高等学校から分離独立し、埼玉県立鴻巣女子高等学校となりました。

昭和41年に家政科(現行は家政科学科)、翌年に保育科が加わり、普通科と2つの専門学科を持つ家庭科教育の拠点校となりました。

それから時を経て、平成7年に創立30周年記念式典を挙行事、翌年、現行の制服にリニューアルしました。平成27年に創立50周年記念式典を挙行事することができました。本年度(令和7年度)開校60周年となる伝統校です。



写真1 管理棟校舎

2 学校の特徴

本校の目指す学校像は、以下のとおりです。

(1) 自立した女性の育成

社会人としての基本的生活習慣やマナーを身に付け、生きる力を育み、自己や他者の理解を深め、行動できる女性を育てる。

(2) 社会に貢献できる人材の育成

基礎的・基本的な学力の向上を図り、多様な科目を通し、専門的な知識・技術を身に付け、地域と連携した実践的な学びを推進することで社会に貢献できる人材を育てる。

現在、普通科2クラス、家政科学科1クラス、保育科1クラスの併置校です。

生徒の進路は、大学、短大、専門学校、就職と様々で進路多様校です。最近では、大学への進学者が増加しています。

3 PTA組織

PTAは、以下のような組織編制となっています。

現在、保護者全員の方に加入していただいています。

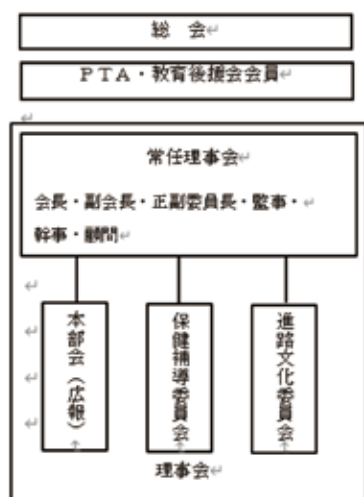


図1 PTA組織図

4 PTA活動

(1) 総会・理事会・役員会

各HRから、PTA役員である理事を6名ずつ選出し、各委員会に所属していただきます。総会に向けて、常任理事会、理事会を経て、全体の総会を開催します。PTA総会等で学校に行くことにより、子供の学校の様子等を知ることができます。仕事との両立で大変ではありますが、良い機会となっています。

また、PTA活動を通じて、保護者同士の情報交換もでき、先生方から子供の学校生活の様子も聞けるなど、たくさんのメリットもありました。



写真2 PTA総会

(2) 本部会（兼広報係）

本部会は、PTA会長、副会長、以下役

員を本部役員として構成しており、以下の取組を行っています。

- ・PTA総会の運営
- ・高P連関係の活動への参加
- ・理事会、常任理事会等の運営
- ・PTA広報誌「鴻女」発行（年3回）等



写真3 「鴻女」

(3) 進路文化委員会

進路文化委員会は、年に1回8月に、本委員会が中心となって企画・運営する「進路講演会」を実施しています。

今年の講演会は、8月23日（土）に、教育通信社 江口 隆司 氏を講師としてお招きし、「こんな時代の進学事情と進学資金」についてお話いただきました。

進学や就職について御講演いただき、子供の夢の実現のためにも早い段階で講演会を聞くことが大切で、より多くの方に参加していただきたいと感じました。

(4) 保健補導委員会

保健補導委員会は、生徒の安全や行事に関する支援をしています。9月に文化祭の警備、10月に生徒と共に登下校時の挨拶運動、10月に体育祭の受付を行っています。

(5) 文化祭

文化祭では、PTA役員が中心となり、

一般公開日に「ひだまりスイーツ」の企画・運営を行います。

「ひだまりスイーツ」では、鴻巣市の老舗洋菓子店の「こうのとりサブレ」等、鴻巣市にちなんだお菓子の詰め合わせを販売します。今年度も多くの方に購入していただき完売できました。収益金は、全額教育活動費として生徒会に寄付しており、学校行事等で生徒に還元していただいております。



写真4 「ひだまりスイーツ」の様子

その他、文化祭では、保健補導委員会を中心に受付や校内警備を担い、生徒が安全・安心して文化祭に取り組めるよう支援しています。

(6) 地域活動への参加

P T Aでは、鴻巣市内の小・中学校と連携して、「市民のつどい」や「夜間パトロール」を実施しています。学校内だけでなく、市内地域の方と連携して、情報交換や子供たちの安全を支援しています。

(7) 鴻女を考える会（学校評価懇話会）

鴻巣女子高校の今後について考えていくために、学校運営協議会委員、保護者（P T A会長等）、生徒、教員がテーマに沿って話し合いをし、保護者として、学校運営について意見を述べる機会となっています。また、令和7年度より、コミュニティ

ースクールとなり、学校運営協議会を設置しています。保護者代表として他の委員の方と共に、学校運営について考え、意見を述べ、場合によっては県に要望も行います。

(8) 卒業式

保護者を代表して、お世話になった学年団の先生方へ感謝の気持ちを伝え、花束を贈っています。



写真5 卒業式

(9) 入学許可候補者説明会

3月の入学許可候補者説明会後の保護者会で、P T A活動について説明を行います。その後、H R毎に分かれ、新入生（1年生）保護者の中から役員決めを行います。

(10) 本校でのP T A活動の現状

P T A活動の現状は、以下のとおりとなっております。

- ・役員決定に苦勞しており、話し合いだけでは決まらない、悩ましい現状もあります。

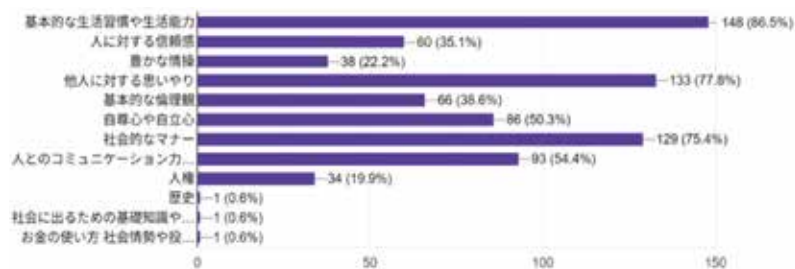
- ・積極的にアイディアを出し、より良い学校行事となるよう協力しています。

5 家庭教育とP T A

家庭が、子供の生活を学校と共に支えるためにどうあるべきか考えるため、アンケート

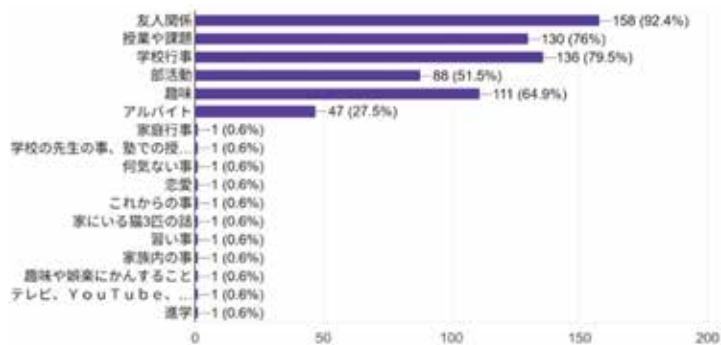
調査を実施しました。

① 家庭教育で重視していること



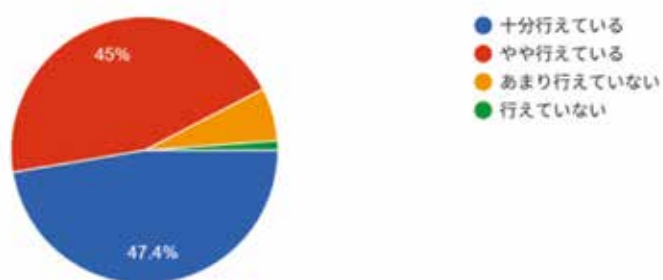
「基本的な生活習慣や生活能力」、「他人に対する思いやり」、「社会的なマナー」等、卒業後社会に出てからより重視される項目が上位3位となっています。

② 家庭での会話、食事、挨拶について



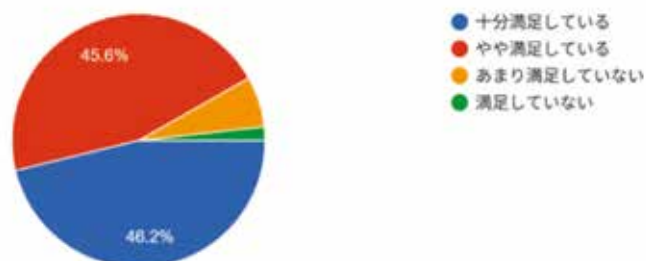
「友人関係」、「学校行事」、「授業や課題」等学校生活が家庭の会話の上位にあがっています。

③ 本校の地域連携やP T A行事について



92.4%の保護者が「十分行えている」、「やや行えている」と回答しており、肯定的に捉えています。

④ 本校の学校生活に対する満足感



91.8%の保護者が「十分満足している」、「やや満足している」と回答しており、学校生活に対する満足感が高いです。

⑤ 本校に期待することは何か。

- ・女子高ならではの知識と教養
- ・進学を目指しやすい環境づくり
- ・学力向上
- ・生徒の主体性や個性を伸ばす取組等

P T A活動や学校生活に対して肯定的な回答が多く、家庭での話題も学校生活に関する内容が上位を占めていることがわかりました。P T Aとして学校生活をサポートすることで学校生活がより充実し、家庭にも返ってくるので、家庭と学校が両輪となって、子どもの成長をサポートしていくことが大切であると考えています。

6 おわりに

子供の健全育成のためには、家庭と学校が協力して学校生活を支えることが重要です。女子高ならではの落ち着いた環境を活かし、地域連携等の様々な学びの機会を増やすことで、子供の主体性や個性を伸ばせるよう、P T Aとしても学校をサポートしてまいります。

これからも、P T A、学校、地域の皆様と共に、地域に愛される学校を目指して活動していきたいと思ひます。